CatalTo2018 受賞カタログ一覧

賞の名称	書名（副題を含む）	キャッチフレーズ	開催館及び開催期間（巡回情報を含む）	企画・編集担当	発行元	デザイン・装幀	印刷所	200字選評
クロスジャンル賞	『駒井哲郎：煌めく紙上の宇宙』	銅板に刻まれた探究の軌跡	横浜美術館（2018.10.8-11.17）	片多祐子（横浜美術館）、 日比野民蓉（横浜美術館）	玲風書房	パックス	シナノ書籍印刷株式会社	銅版画家・駒井哲郎（1920-1976）の制作におけるジャンルを超えた展開と、そのインスピレーション源となった作品、周辺作家による作品をまとめて紹介する。瀧口修造の推薦により加入した実験工房で作曲家や写真家と共同制作した駒井は、その後も挿画や装幀の仕事を通じて文学作品とイメージの相互作用を模索した。舞台美術への取り組みも興味深く、銅版画という「紙上の宇宙」の奥深さが改めて実感される。関連作家たちと交わした書簡の翻刻も収録。
総合デザイン賞	『天文学と印刷：新たな世界像を求めて』	世界を変えた知と技術の宇宙、この一冊に	印刷博物館（2018.10.20-2019.1.20）	図録編集：印刷博物館学芸企画室 ／トッパンアイデアセンター ／ 五柳書院	凸版印刷株式会社 印刷博物館	中野デザイン事務所	凸版印刷株式会社	天文学と印刷の深い結びつきは、人間の知や認識を変え、世界を描き理解したいという欲求に応えてきた。そのありようを、多彩な資料で紹介する一冊。装丁はコデックス装で、本のノドいっぱいまで開く実用性とともに、書物のアカデミックな空気を後押しする。闇に浮かぶ星を思わせるコールドフォイル印刷も美しい。展覧会チラシには集めて並べたくなる仕掛けがあり、展覧会とプロモーションを総合的にデザインすることに成功した。
学術賞	『戊辰戦争一五〇年』	戊辰の戦役を目の当たりにせよ！	新潟県立歴史博物館（2018.7.14-8.26） 福島県立博物館（2018.9.1-10.14） 仙台市博物館（2018.10.26-12.9）	福島県立博物館	新潟県立歴史博物館・福島県立博物館・仙台市博物館	記載なし	北斗印刷株式会社	文書・古地図・錦絵・古写真・古物など、豊富な資料を縦横に駆使し、150年前の戦役の経過を詳細に描き出している。戦いにいたる過程や、戦後処理から回顧・慰霊にまで丁寧に目が配られている記されているうえ、学術的にも貴重な資料が多く、このあと戊辰戦争を考えるにあたっては必携の一冊となった。話題の明治150年ではなく、あえて戊辰戦争に焦点を当て、東北の側から歴史を捉えようとした姿勢にも強く共感する。
クロスジャンル賞	『鏡花人形　文豪 泉鏡花+球体関節人形』	闇に浮かぶ言霊の形象たち	弥生美術館（2018.7.1-9.24）	編著：吉田良、野口哲也 ／企画・編集：中村圭子（弥生美術館）	河出書房新社	松田行正、日向麻梨子	凸版印刷株式会社	日本語の母語話者の喜びのひとつに、泉鏡花の文章を読めることがあるという見解に反対する人は、あまりいないのではないでしょうか。反面、その言語的な制約を解き放つのに、近現代の芸術家たちの仕事が役立ってきました。懐かしさや妖しさや、闇や色彩やといった鏡花文学がもたらすイメージは、版画や映像などのかたちをとることでより広い人々に共有されます。このカタログは、そうした試みの新たな成果です。この優れた入り口は、鏡花文学の闇と幻に言葉とは別の回路から潜り浸る悦びを与えてくれます。
薄くても良いで賞	『工芸の教科書』	ありそうでなかった！一冊で誰でもよく分かる工芸	栃木県立美術館（2018.11.2-12.24）	鈴木さとみ（栃木県立美術館）	栃木県立美術館	笹川アツコ	株式会社 山田写真製版所	小学生の頃に使っていた教科書やノートを思い起こさせるシンプルな装幀と厚みが印象的。表紙を開くと、画質のよい多数のカラー写真のほか、読みやすくも充実した解説文により、美しい益子焼やガラス工芸、漆芸、竹工芸など、栃木ゆかりの工芸を中心とする作品の世界へと誘われる。さらに、あまり広く知られていない工芸作品の技法や製作過程が、これもまたすべて写真付きで、一つ一つ丁寧に紹介されている。初めて工芸に触れる読者が、ゼロから楽しく学ぶことができるコンパクトな一冊。専門家や研究者にとっても、知識や情報が一つにまとまった工芸の参考文献として有益だろう。まさに優れた「工芸の教科書」として、ぜひ多くの読者に推薦したい。
一般にもオススメで賞	『ブラジル先住民の椅子』	座るよりもただただ眺めたくなるような魅力あふれる椅子たちの世界	東京都庭園美術館（2018.6.30-9.17） 埼玉県立近代美術館（2019.4.6-5.19）	東京庭園美術館、 埼玉県立近代美術館、 美術出版社　デザインセンター	株式会社美術出版社	中村逹一、芳賀理子（美術出版社　デザインセンター）	シナノ印刷株式会社	一目見ただけでは椅子とは思えない、芸術作品とでもいえるような写真が載っている表紙。カタログを開いてみると、まるで動物たちが行進しているかのように列をなしていて、見開きページの初めと終わりに、かわいい顔や尻尾をのぞかせている。めくるだけでも楽しいこのカタログは、作り手たちの豊かな想像力を伝えるとともに、ブラジルの多様性を物語り、人間の自然環境と社会とのかかわりや、伝統と現代というテーマについても考えさせられる一冊である。
世代を超えるメッセージ賞	『1968：激動の時代の芸術』	1968年を知らない私たちに、激動の時代を伝える一冊	千葉市美術館（2018.9.19-11.11） 北九州市立美術館分館（2018.12.1-1.27） 静岡市美術館（2019.2.10-3.24）	千葉市美術館(水沼啓和)・北九州市立美術館(小松健一郎)・静岡県立美術館(川谷承子)・望月麻美子	千葉市美術館・北九州	中野豪雄・西垣由紀子・原聡実・(中野デザイン事務所)	山田写真製版所	選者にとって、1968年とは自分の親が生まれるよりも前の"時代"である。本カタログは、様々な観点から時代の様相を浮き彫りにし、当時の激動を知らない世代に時代のメッセージを伝える。独特の色彩や材質の紙の組み合わせ、衝撃的な作品のレイアウトなどのビジュアル面はもちろん、豊富な関連エッセイ・インタビューなど文字資料面の充実も見逃せない。当時を回顧する人々はもちろん、1968年を知らない世代にこそ推薦したい一冊。

賞の名称	書名（副題を含む）	キャッチフレーズ	開催館及び開催期間（巡回情報を含む）	企画・編集担当	発行元	デザイン・装幀	印刷所	200字選評
一般来館者賞	『ヒグチユウコ画集　CIRCUS』	駒場博物館の来館者アンケートで選ばれた、ヒグチユウコが描くグロかわいい世界	世田谷文学館（2019.1.19-3.31） 神戸ゆかりの美術館（2019.6.15-9.1） 奥田元宋・小由女美術館（2019.9.12-11.4）ほか巡回	編集:津田淳子(グラフィック社)	グラフィック社	名久井直子	図書印刷株式会社	駒場博物館で行われた「美術展を本の世界で2」展の来館者アンケートにて、印象に残ったものとして一番多く選ばれたカタログ。まずサーカスというタイトルにふさわしい表紙とデザインが目を引く。中には、色鮮やかでかわいいけれどどこかグロテスクな世界が広がっており、ホラー漫画のような妖しさ、不思議の国のアリスのような懐かしさを感じさせる。中のとじ込みも絵本仕様で読み応えあり。原画、商品デザイン、個展の様子、他の著書の作品と、ヒグチユウコワールドの集大成のような内容に、作品自体に注目してほしいという気持ちが伝わる編集が加わった素晴らしい画集。
これっくらいではすまないで賞	『おべんとう展』	「これっくらいのお弁当箱」には収まりきらない充実した内容で、創意工夫と愛情がぎっしり詰まった一冊	東京都美術館（2018.7.21-10.8）	上條桂子・米津いつか・熊谷香寿美・稲庭彩和子	東京都美術館	宇田川裕喜・林王華音・國影志穂・BAUM LTD.	山田写真製版所	お弁当を人と人のコミュニケーションを取り持つメディアであると捉えた上で、人とお弁当がつむぐ食文化について様々な気づきや新たな価値観をもたらしてくれる一冊。誰にとってもお弁当は身近な存在であるだけに、実感をもってページをめくることができるだろう。またこの展覧会カタログは、通常の展覧会カタログである「いただきます編」と、展覧会会場で行われたワークショップの模様などを収録するために展覧会後に制作された「ごちそうさま編」の二冊に分冊されている。このように展覧会そのものをカタログとしてアーカイブするという、従来の展覧会には見られなかった新機軸も盛り込まれているユニークな一冊となっているのである。
カタログヒットメーカー賞	『海を渡ったニッポンの家具：豪華絢爛仰天手仕事』	LIXILギャラリーという安心感。住まいと建築への新しい視点を与えてくれる4冊。	LIXILギャラリー大阪（2018.6.8-8.21） LIXILギャラリー東京（2018.9.6-11.24）	編集:住友和子編集室+村松寿満子	LIXIL出版	鯉沼恵一	凸版印刷株式会社	2016年度のCatalToに『南極建築1957-2016年』が挙げられ、2017年度には『西山夘三―すまいの採集帖』が詳細な資料と興味を引く面白いイラストで高く評価された。2018年度のCatalToでもLIXILギャラリーのカタログが4冊も選ばれた。言わずともカタログヒットメーカーであると言えよう。今回選ばれた4冊も、生活と密着している建築や住まいに関するカタログで、どれも魅力的なテーマであり、イラストを使用した独特な構成で初心者にも親しみやすく、読者の心を掴む力がある。
	『富士屋ホテルの営繕さん：建築の守り人』		LIXILギャラリー大阪（2018.9.7-11.20） LIXILギャラリー東京（2018.12.6-2.23）	石黒知子、成合明子	LIXIL出版	川名潤	凸版印刷株式会社	
	『吉田謙吉と12坪の家：劇的空間の秘密』		LIXILギャラリー大阪（2018.12.7-2.19） LIXILギャラリー東京（2019.3.7-5.25）	羽佐田瑠子、川口ミリ	LIXIL出版	藤井瑠	凸版印刷株式会社	
	『台所見聞録：人と暮らしの万華鏡』		LIXILギャラリー大阪（2019.3.8-5.21） LIXILギャラリー東京（2019.6.6-8.24）	石黒知子、成合明子	LIXIL出版	川名潤	凸版印刷株式会社	
大学美術館賞	『新島実と卒業生たち：そのデザイン思考と実践1981-2018』	息をのむほどの、文字の造形美がここに。	武蔵野美術大学 美術館・図書館（2018.9.3-9.29）	新島実（監修）・北澤智豊・ 内田麻美子・蟹沢真弓	武蔵野美術大学 美術館・図書館	松谷剛（文字言語と視覚言語をあそぶ） 谷田幸（ゼミ卒業生編）	凸版印刷株式会社	文字や書物をめぐる数々の優れた展覧会を開催してきた武蔵野美術大学 美術館・図書館が、2018年も渾身の図録を刊行。『和語表記による和様刊本の源流』は、近世日本の木版刷りの傑品を眼前にするかのような、極めて高い印刷再現度を誇る。別冊で論考篇が付随する充実度も、大型の研究プロジェクトを遂行した同大学ならでは。研究が実作に結びつく点も美大らしく、同展を監修した新島実教授らの作品の展覧会図録と並べて見ると、デザインの楽しさ、美しさが存分に味わえる。
	『和語表記による和様刊本の源流』		武蔵野美術大学 美術館・図書館（2018.11.1-12.18）	新島実（企画・監修）・寺山祐策（企画・監修）・本庄美千代・沢田雄一・西村碧	武蔵野美術大学 美術館・図書館 武蔵野美術大学 造形研究センター	渡邉翔（ポスター・フライヤーデザイン 中野豪雄）	凸版印刷株式会社	